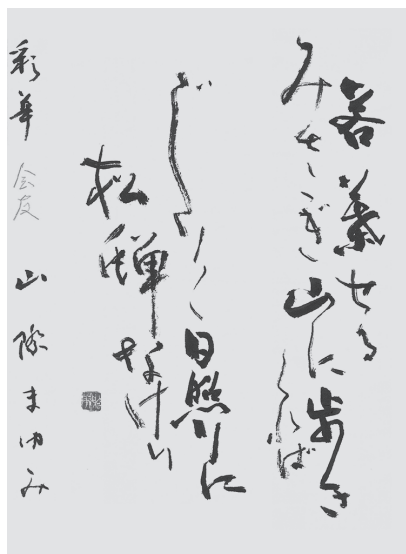


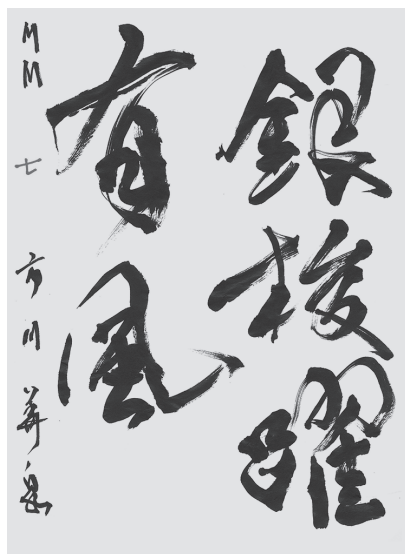
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



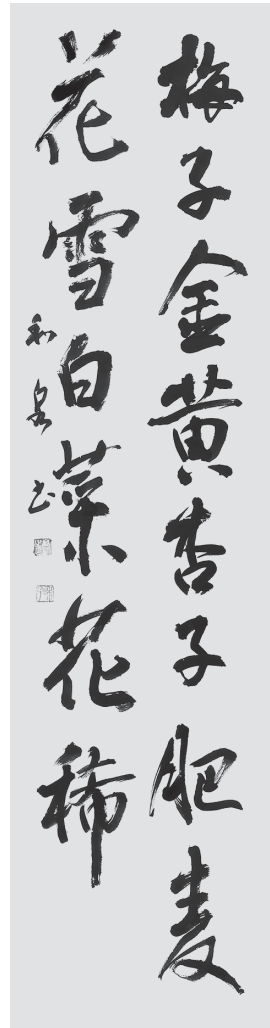
彩華 山際 彩華 筆鋒が紙背に通じ、太細のある線と緩急をもたせた滞らないリズムが心地よい。抑揚の変化もあり、気宇壮大な作品。
(審査評 二宮 桂秀)

【漢字半紙】



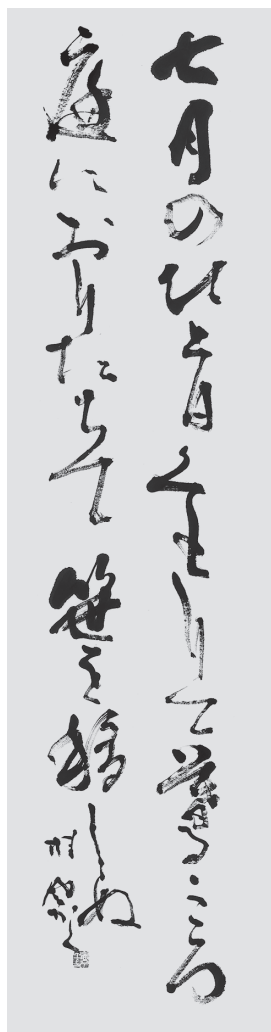
MM 市川 華泉 「渴驥奔泉」筆勢が強く、肥瘦・疎密をバランス良く配し生命力や躍動感が横溢。多彩な線質にも魅了される。
(審査評 池田 知之)

【漢字条幅】



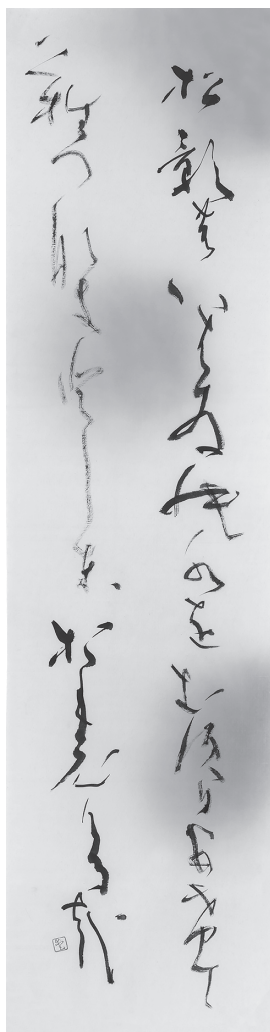
和 高橋 和泉 連綿表現は無いが、力強さの中に快い脈絡を感じさせてくれる。濃墨を活かした鍛練の秀作。
(審査評 永井 香樹)

【新和様条幅】



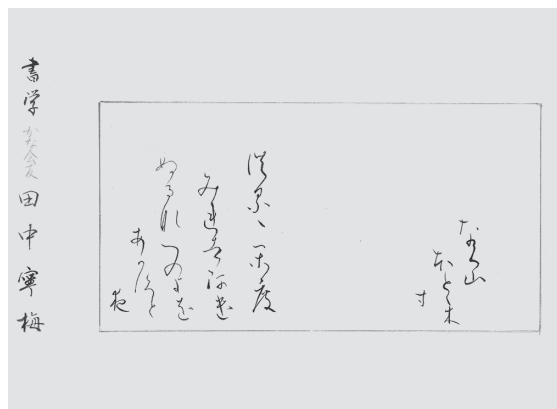
一楊 阿部 桂風 潤濁、字の大小、漢字とかなのバランスもよくとれ、余白のきいた流れのよい作。字のデフォルメも上手く、「庭」は一字書にも使えます。
(審査評 東伸 遙邨)

【かな条幅】



祥瑞 河野 愛子 グレーの、ぼかしの紙に墨の濃淡が相俟って品良く美しい。筆を駆使した太細の変化が見事で、すっきりと涼やかな作品に仕上がった。
(審査評 中島 永岳)

【かな半紙】



書学 田中 寧梅 変体仮名の冴えた深い線と墨の濃で趣深く臨書した。後半の三行は、穏やかに白と調和し行構成の妙手が窺える。
(審査評 永瀬 和子)



8月提出の競書の写真版全作品は、8月28日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

銀梭躍
有風

松平 隼六 恒子

銀梭躍
有風

細草 準七 松原 茂樹

銀梭躍
有風

多摩 準八 柳田 弘流

銀梭躍
有風

書学 準八 若田 天音

銀梭躍
有風

觀門 菅原 玄山

銀梭躍
有風

湘花 準六 高橋 佳子

銀梭躍
有風

書学 準七 廣木 萌香

銀梭躍
有風

書学 準八 久岡 玉恵美

銀梭躍
有風

榮軒 準七 境 あり

銀梭躍
有風

墨書 準八 石島 行雄

銀青光
祿夫

五香 準六 森 二葉

銀梭躍
有風

龍作 準六 高柳 四重香

銀梭躍
有風

仙里 準八 山田 翠圭

銀梭躍
有風

平泉 準八 千葉 高代

銀梭躍
有風

新書 貞 宮城 兼湖

銀青光
祿夫

宮代 準六 相良 みどり

銀梭躍
有風

大鶴 準六 長野 正代

銀梭躍
有風

一葉 準七 村磯 輝子

銀梭躍
有風

沖繩 準八 八木 和哉

銀梭躍
有風

後坂 準八 藤塚 千鶴

銀青光
祿夫

土筆 準五 奥崎 和江

銀梭躍
有風

玉名 準六 内田 由美子

銀梭躍
有風

青葉 準七 和田 昌子

銀梭躍
有風

仙水 準八 川口 凛々

銀梭躍
有風

書学 準八 久保 真紀子

銀青光
祿夫

FC 準五 中尾 友香

銀梭躍
有風

藤本 準五 山本 菜央

銀梭躍
有風

24 準五 関根 朋美

銀梭躍
有風

書学 準八 竹谷 律子

銀梭躍
有風

紺青 準八 下澤 希雪

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

銀青光祿
大夫
長山 伊藤 同博子

青州刺史
書学 加藤 詩遠

銀青光祿
大夫
書学 加藤 詩遠

銀青光祿
大夫
書学 加藤 詩遠

銀青光祿
大夫
書学 加藤 詩遠

銀青光祿
大夫
書学 加藤 詩遠

青州刺史
書学 吉田 扇春

銀青光祿
大夫
書学 吉田 扇春

銀青光祿
大夫
書学 吉田 扇春

銀青光祿
大夫
書学 吉田 扇春

銀青光祿
大夫
書学 吉田 扇春

青州刺史
書学 安田 朋未

銀青光祿
大夫
書学 安田 朋未

銀青光祿
大夫
書学 安田 朋未

銀青光祿
大夫
書学 安田 朋未

銀青光祿
大夫
書学 安田 朋未

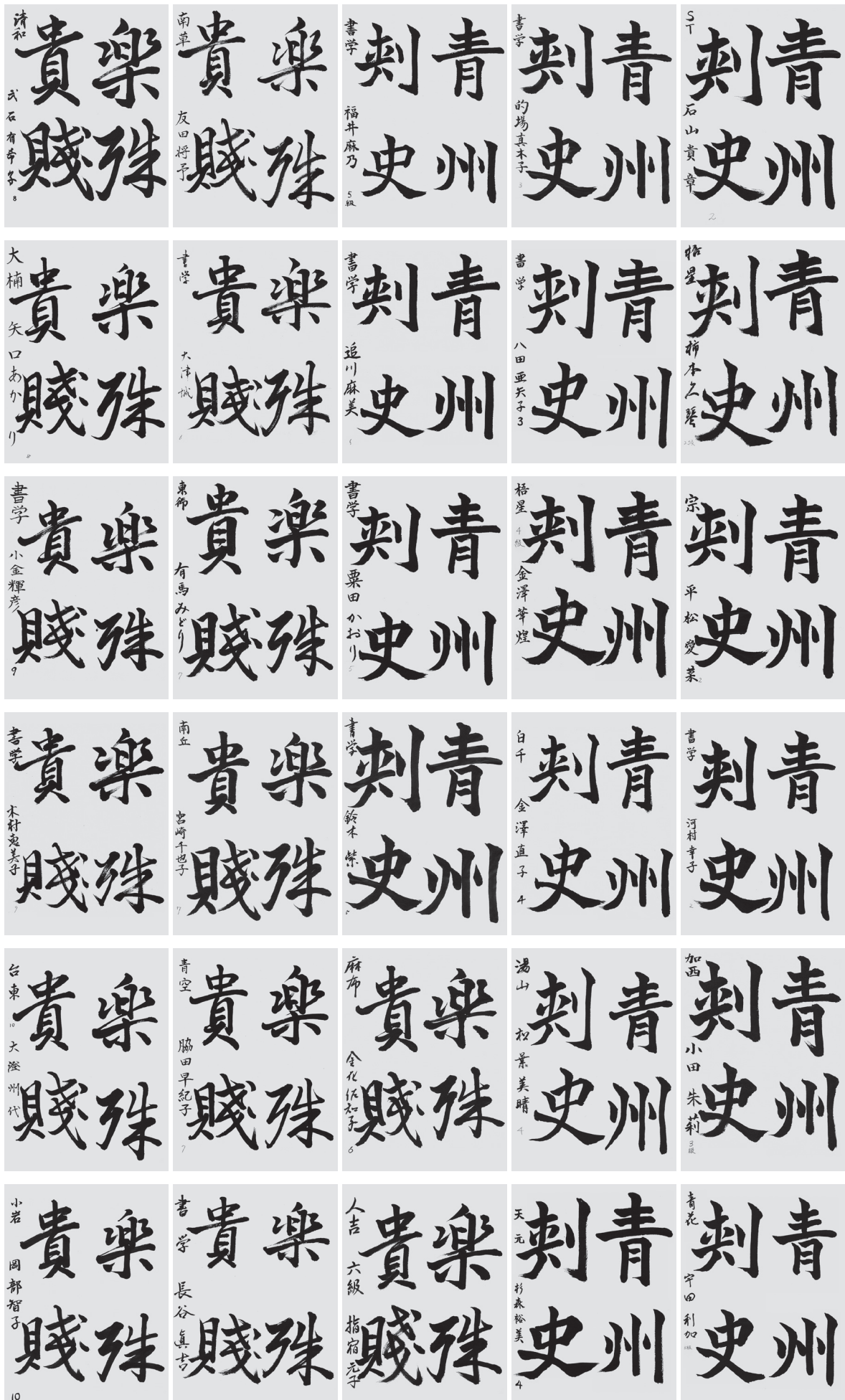
青州刺史
書学 福村 尚美

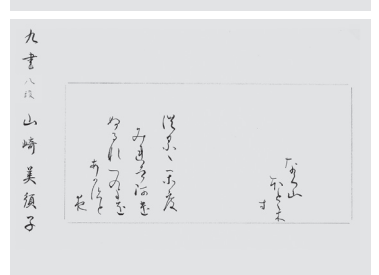
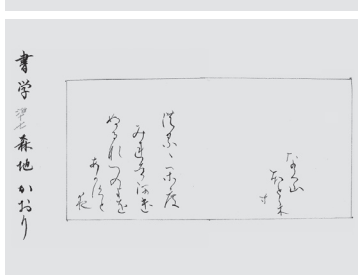
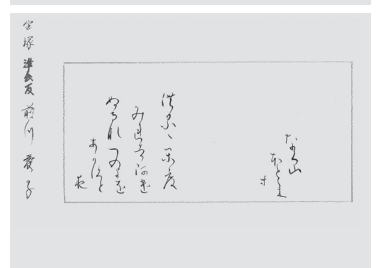
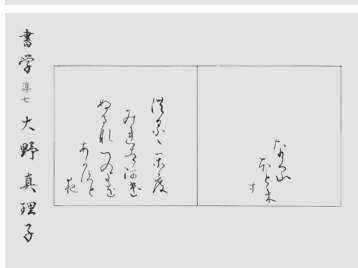
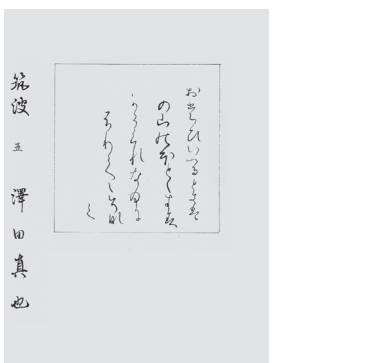
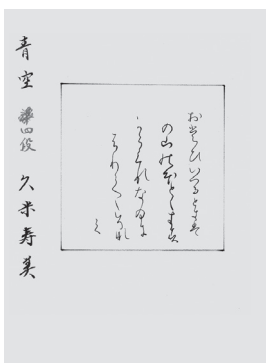
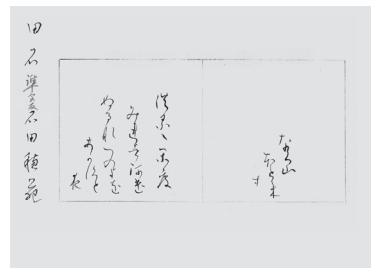
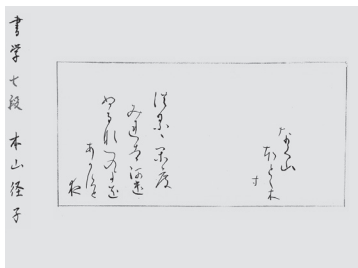
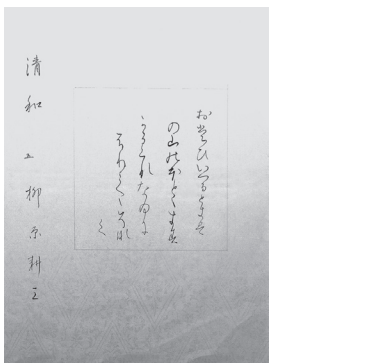
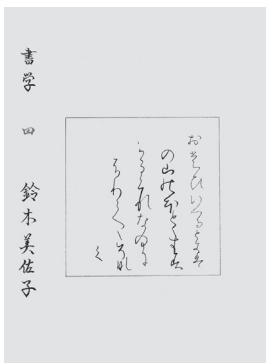
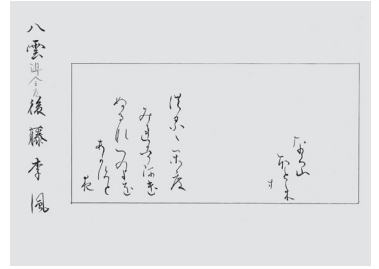
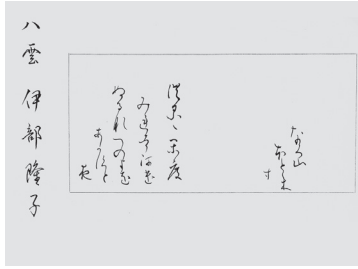
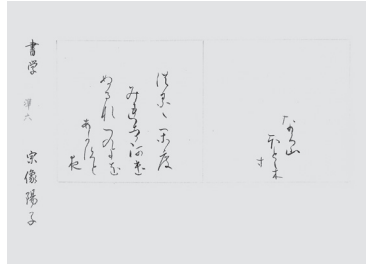
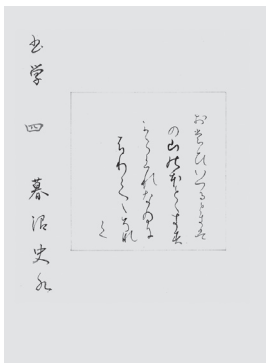
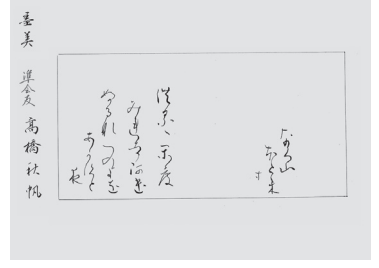
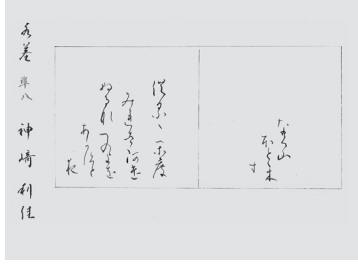
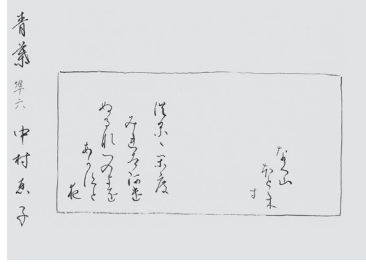
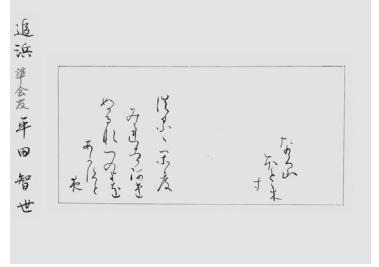
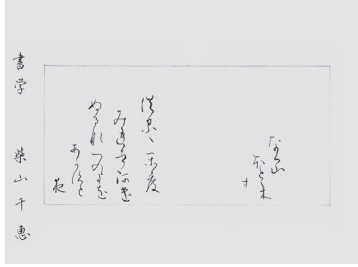
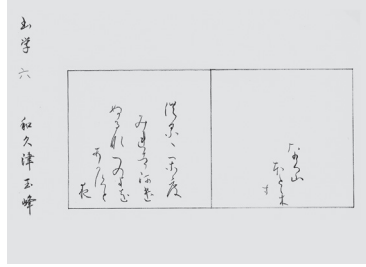
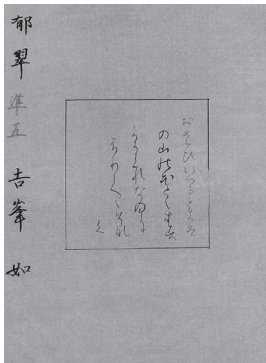
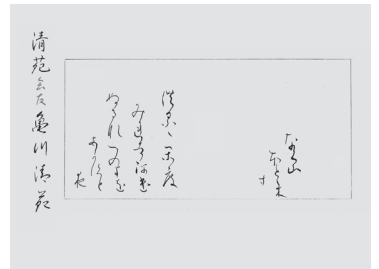
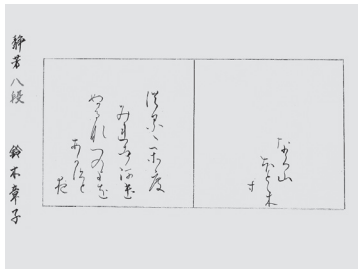
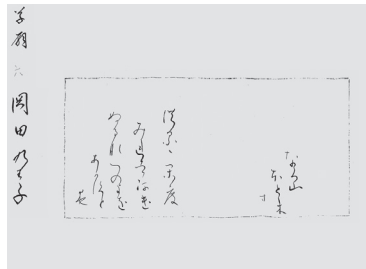
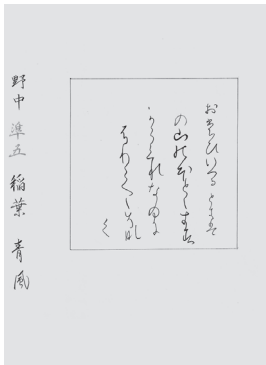
銀青光祿
大夫
書学 福村 尚美

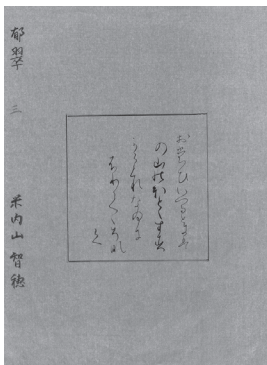
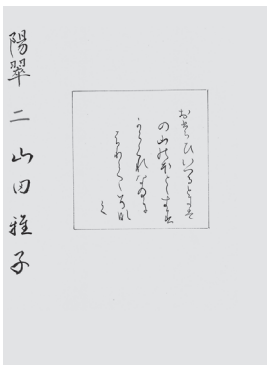
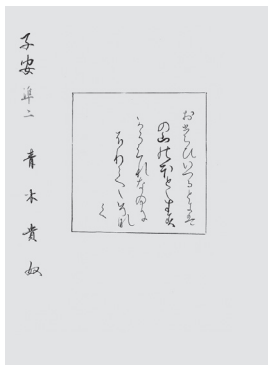
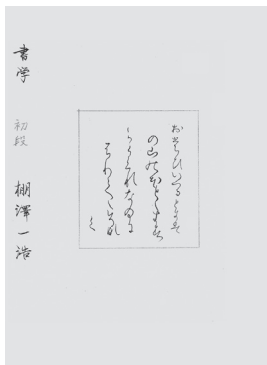
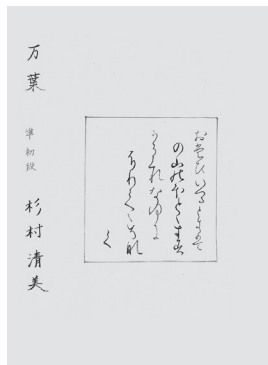
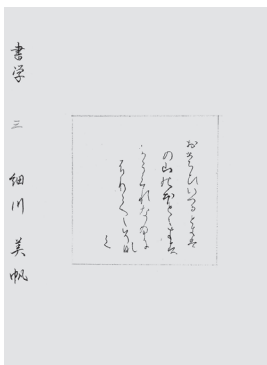
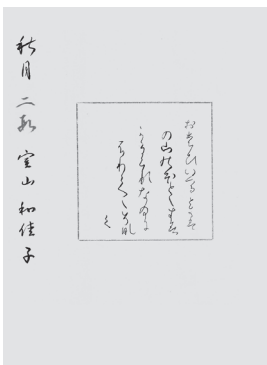
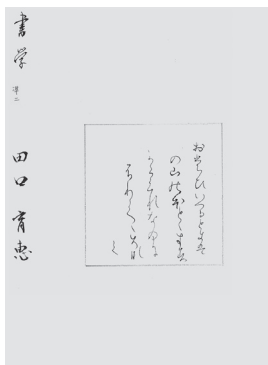
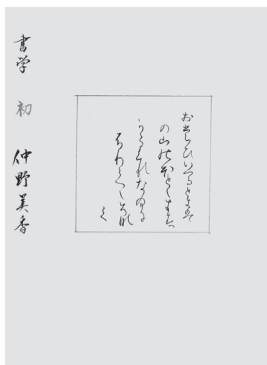
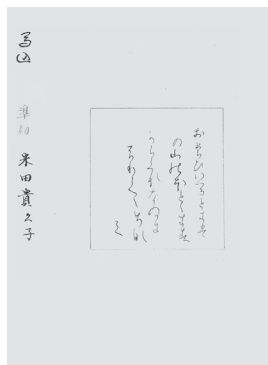
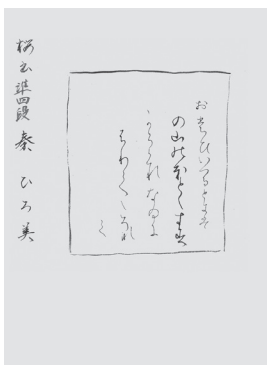
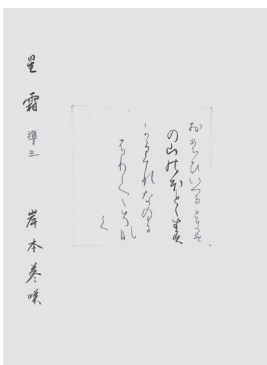
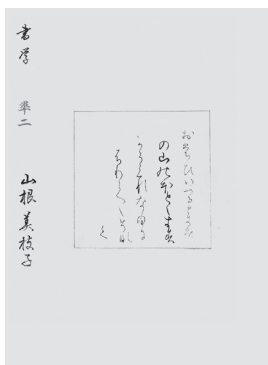
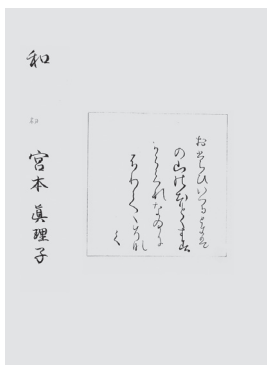
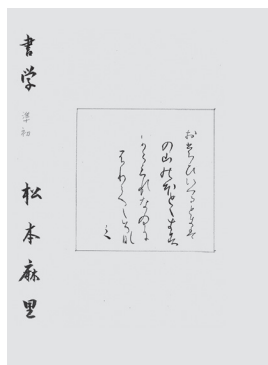
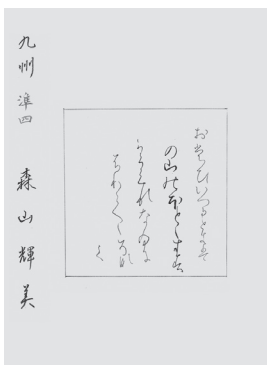
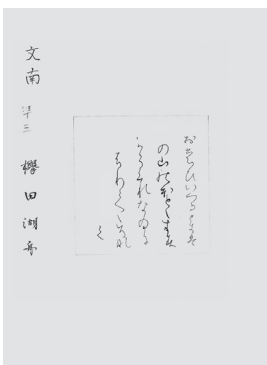
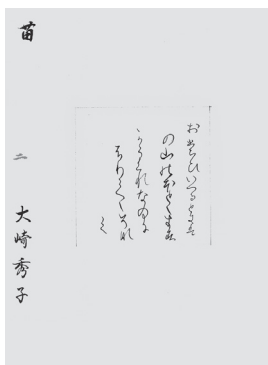
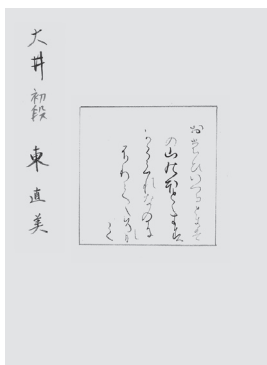
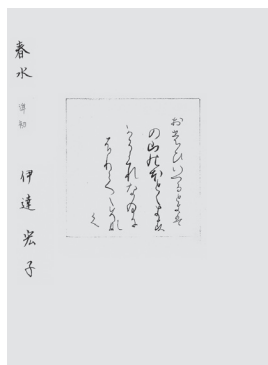
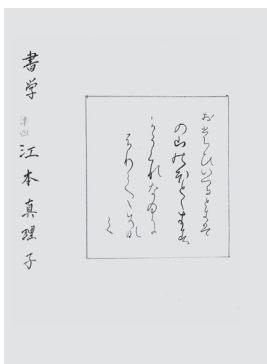
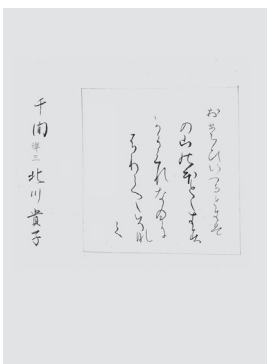
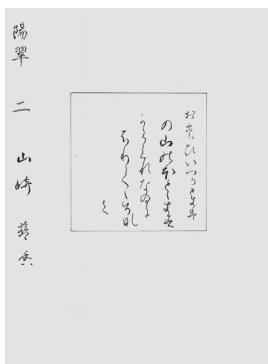
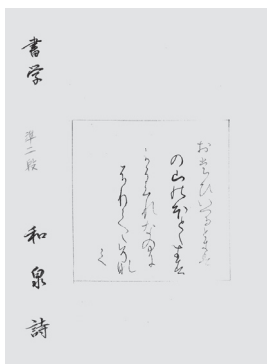
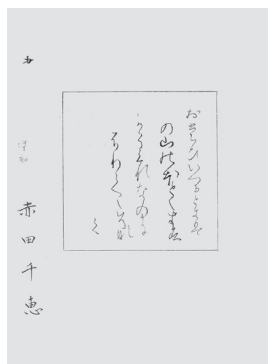
銀青光祿
大夫
書学 福村 尚美

銀青光祿
大夫
書学 福村 尚美

銀青光祿
大夫
書学 福村 尚美







書学
初貝 明美 7

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

青梅
辻政子 6

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

書学
宮本信子 4

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

青花
齋藤みさ子 3級

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

書学
須賀 純子 1

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

千日
石島 徳子 8

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

清
中島 芳子 1

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

六花
三村 莉香 4

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

大柳
内田 祐子 3

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

神
谷里 祥子 1

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

廣島
坂田 敏子 8

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

水藍
佐久間 明美 6

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

書学
深谷 美久 5

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

加西
小田 朱莉 3級

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

書学
荒井 静枝 1

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

大藤
湯浅 芳子 9

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

梧里
目黒 由華 7

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

水無
牧奈 瑞美 4

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

永岳
岩田 智恵子 3

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

栄友
田中 美海 2

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

三木
谷生 彩華 10

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

南立
宮崎 千也子 7

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

五香
館野 祐子 4

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

白千
金澤 直子 4

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

書学
安藤 雅子 2

あーひさのやうなれなうか
うささく人れいねをみあけんあき

秋月
須佐光宏
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

市川 七院
白川 函香
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

大楠 準八 三瓶 道代
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

佳寿 義國 松佳子
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

如月 孝七
宮坂 真知子
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

愛山 八
加藤 安海
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

豊里 津六
我澤 典子
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

山江 孝七
神田 真美
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

福山 八
谷川 かおり
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

書学 津六
熊倉 名代子
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

青葉 津六
中村 美子
若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

若葉せむ
みさぎふ山に歩き
くれば
いりいり日照りに
松輝なけり

MM
初段 千葉 伶華
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
二段 川村 三彩子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
三段 遠藤 志帆
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

DP
四 大重 寿子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

杉並五段 中村 千晴
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
初段 赤田 千恵
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

九条
二段 木下 樂堂
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
三段 松田 徳子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
四 大谷 恵
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
五段 田村 崇子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

大柳
初 玉田 祝典
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

芳水
二段 柴原 かおる
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

RU
三 アレクサンドル
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

柳井
四 神崎 聖海
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

小島
五 石田 久江
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

柳政
五 坂田 里香
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
林 友紀
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
三段 松田 雅美
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
四 小形 久美子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

大森
五 平岡 由記子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

長嶽
半初 大脇 夏菜
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

月倫
並木 蓮月
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

書学
三段 佐野 和代
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

松島
準四 櫻井 多恵
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

永岳
四 落合 富子
ぐったりと
青草の上に寝て
ありぬ
青葉よ
何とふ勢ぞ

七夕の
風吹く岸の
深みどり
二宮 遠藤 康子

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 加藤 潤子

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 鶴井 美登 4

七夕の
風吹く岸の
深みどり
大泉 森 通曉

七夕の
風吹く岸の
深みどり
く。 都倉 千代乃 8

七夕の
風吹く岸の
深みどり
奥島 丹 藤 雪華 1

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 常任 幸江 5 暇

七夕の
風吹く岸の
深みどり
さぶ 倉持 政雄 4

七夕の
風吹く岸の
深みどり
永岳 桜井 豊子 6

七夕の
風吹く岸の
深みどり
草扇 齊藤 洋子 8

七夕の
風吹く岸の
深みどり
松野 増田 穂華 1

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 沢本 慶子 5

七夕の
風吹く岸の
深みどり
宮本 和美 5 暇

七夕の
風吹く岸の
深みどり
大泉 薄口 久子 5

七夕の
風吹く岸の
深みどり
大藤 湯浅 芳子 9

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 山根 美枝子 2

七夕の
風吹く岸の
深みどり
松平 鈴木 直子 5

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 鈴木 紫 5

七夕の
風吹く岸の
深みどり
MM 鈴木 絵津子 7

七夕の
風吹く岸の
深みどり
書学 唐木 真知子 5

七夕の
風吹く岸の
深みどり
梧星 横本 信子 2

七夕の
風吹く岸の
深みどり
新潟 坂井 元華 5 暇

七夕の
風吹く岸の
深みどり
青花 齋藤 みさ子 5 暇

七夕の
風吹く岸の
深みどり
望月 梁瀬 由美子 5 暇

七夕の
風吹く岸の
深みどり
豊里 大山 妙子 10

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

書学 岩國 松雪

龍門 長崎 心岳

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

ふじ 石川 桂舟

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

姫春 中村 楓香

松竹留因夏溪山去為
秋久廣白雪詠

書学 大野真理子

松竹留因夏溪山去為
秋久廣白雪詠

梧星 吉田 扇春

孤蓬萬里征

紅彩 高木 揚子

孤蓬萬里征

揚子

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

交墨 高橋 恭子

書学 海老原麗子

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

書学 金澤 朋恵

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

西湘 瀬戸 裕江

松竹留因夏溪山去為
秋久廣白雪詠

書学 高橋 章子

松竹留因夏溪山去為
秋久廣白雪詠

藍 園山 桜雪

孤蓬萬里征

書学 眞田 夏鹿

孤蓬萬里征

夏鹿

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

書学 指田 敦子

九書 山崎美須子

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

大磯 岩本 麗翠

梅子金黃杏子肥麦
花雪白菜花稀

大井 千葉 弘子

松竹留因夏溪山去為
秋久廣白雪詠

書学 齋藤 和子

松竹留因夏溪山去為
秋久廣白雪詠

あお 小島 玲子

孤蓬萬里征

梧星 藍原 香徑

孤蓬萬里征

藍原

松飛 鹿毛 艸雨
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

書学 田村紫王子

永岳 石井 陽
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

永岳 石井 陽

小絹 小畑 知子
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

小絹 小畑 知子

九州 森山 輝美
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

九州 森山 輝美

はと 森山はる香
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

はと 森山はる香

香竹 三宅 有里
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

香竹 三宅 有里

香竹 三宅 有里
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

永岳 古川 久子
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

大書 谷田 陽香

新書 新井 順子
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

新書 新井 順子

小諸 中島 綾華
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

小諸 中島 綾華

書学 宮下 香奈
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

書学 宮下 香奈

マツ 佐藤早弥香
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

マツ 佐藤早弥香

書学 中堀 美里
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

書学 中堀 美里

書学 中堀 美里
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

ぬま 斉藤 和青
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

大井 清水 英子

水荃 部 久美
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

水荃 部 久美

幸丘 來栖 智子
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

幸丘 來栖 智子

青梅 石嶋 紀子
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

青梅 石嶋 紀子

永岳 二木 操
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

永岳 二木 操

書学 吉村 丘美
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

書学 吉村 丘美

書学 吉村 丘美
松影の岩井の水をせむはありて
友の心をいかにせむ

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

采女 熊野 素心

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

庄和 菅原喜美子

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

水荃 辰巳 望雲

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

水荃 眞野 五郎

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

二戸 戸田 克子

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

唐扇 井上 潔

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

新書 大島 薫

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

栄 山田 青楓

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

CY 岡田 圭峯

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

幸丘 来栖 智子

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

書学 佐野 和代

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

ゆめ 馬場さおり

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

和 高橋 和泉

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

蘭燈 草間 倫子

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

唐扇 井上みゆき

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

西湘 瀬戸 裕江

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

香桜 澤水 清香

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

万葉 西原 恵子

七月のひびくもり暮るころ
庭にかりたもて世を移しぬ

春水 伊達 宏子

教習名	愛山
氏 名	加藤 美子
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	書 学
氏 名	加藤 恵美子
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	M M
氏 名	芳賀 園 鳥
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	大 野
氏 名	大 野 美子
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	瀬 谷
氏 名	浅井 純 泉
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	大 書
氏 名	橋 本 美恵子
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	九 重
氏 名	長谷川 祐 美
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	白 山
氏 名	松 岡 清 菜
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	伊 賀
氏 名	山 口 智 代
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	紺 青
氏 名	菊 地 鞠 代
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	天 草
氏 名	新 幾 子
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

教習名	福 山
氏 名	谷 川 かおり
お中元というほどの品ではございませんが 本日〇〇ようお中元のおしるしに粗品をお送り 日頃のお礼のおしるしまでに	

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

RU K・ピクトリア

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

埼玉 池田 和子

圓寶法隆寺伝米細字法華經
繞佛三匝却住一面尔時彼佛為王說法示教利喜王大歡悅尔時妙莊嚴王及其夫人解頤真珠璣珞價直百千以散佛上於虛空中化成四柱寶臺中有大寶牀數百千萬天衣其上有佛結跏趺坐放大光明尔時妙莊嚴王作是念佛身希有端嚴殊特成就第一微妙之色時雲雷音宿王華智佛告四眾言汝等見是妙莊嚴王

佐野 千葉 悦子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 伊澤 佳那

繞佛三匝却住一面尔時彼佛為王說法示教利喜王大歡悅尔時妙莊嚴王及其夫人解頤真珠璣珞價直百千以散佛上於虛空中化成四柱寶臺中有大寶牀數百千萬天衣其上有佛結跏趺坐放大光明尔時妙莊嚴王作是念佛身希有端嚴殊特成就第一微妙之色時雲雷音宿王華智佛告四眾言汝等見是妙莊嚴王於我前合掌立不此王於我法中作比丘

千翠 小宮富久子

繞佛三匝却住一面尔時彼佛為王說法示教利喜王大歡悅尔時妙莊嚴王及其夫人解頤真珠璣珞價直百千以散佛上於虛空中化成四柱寶臺中有大寶牀數百千萬天衣其上有佛結跏趺坐放大光明尔時妙莊嚴王作是念佛身希有端嚴殊特成就第一微妙之色時雲雷音宿王華智佛告四眾言汝等見是妙莊嚴王於我前合掌立不此王於我法中作比丘

秀仙 楠木 恵美

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 遠藤 志帆

心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

九書 石橋 栄子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 北江 恵子

審査評―秋山 凌雲

規定 「松聲入夜琴」



水室 青戸 佑きこ

外郭を太く巡らし重厚感のある作。文字も端整で伸びやかである。刻線に欠かしが入ると更に良い。



水室 武藤 美栄子

古文を用い五字を二・二・一に布字してバランスが良い。線画力強くシャープである。外郭も四辺それぞれに表情がある。



大森 谷 拓弥

味わい深い線で、全体的に瀟洒な落ち着いた雰囲気漂わせる作。

随意 「泰然自若」



水室 山下 啓子

奇を衒わず、沈着冷静、自然に刻しているところが良い。印文にマッチしている。

規定 (洲)

審査評―石橋 鯉城

書美の真髄を求める漢字の一字書――



桑原 佐伯 政子 書美は點劃の表現に在りと言うが、小氣味よく筆を運び、そのリズムカルな動きで得意を最大限に打ち出す。最終劃の前の點を線に置換しての暢達に繋げる技も見事。大峽谷の底邊に流れを見る如し。

MM 千葉 伶華 洲を量感溢れる草書で書き見事。三水の潤筆から州に亘る渴筆の動きもダイナミックな渴筆表現で山々、岩壁を見るが如し。押印の位置も色も考えたい。

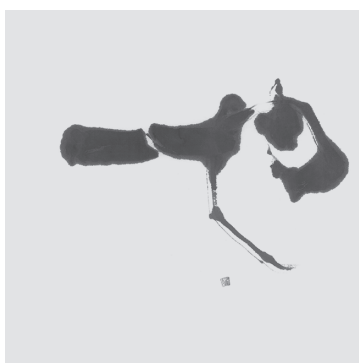
書字 山崎 幸恵 上半分に洲を描くが、三水の第一劃目を野太く書いて明暗の表現力に優れる。これからの展開が楽しみである。大作にした格が高いものになるう。

九書 石橋 栄子 正攻法で草書の洲を表現した作なれど、9級とあり底知れぬ實力が窺われる。筆を操って闊達。運筆力で他を壓す、押印も左で餘白を右に残して静動併せ見事。

随意 (や)

審査評―石橋 鯉城

詩情や筆遣ひの極意を知る平かな表現――



こて 伊藤 紫香 表現豊かな絶品。筆を二本重ねて書し、用筆運筆の妙を極めて我等の目指す一字書を比處に實現、平假名を骨法得た作。場中第一。裏面を見れば、筆壓、書線の交叉が明らかに猶ほ美し。

書字 椎木 雅子 墨象の氣味あるも、餘白に留意して景色渺茫。書線の切れ味も示して平假名「や」を書きたるを示す。

一色 飯塚 幸子 裝飾を控え、真正面から「や」の原形を捉えて骨力に富む。起筆、送筆、収筆の自然な處に人柄が見える。不動心を見る。

平心 長田 哲香 可成艶やかに「や」を表現しているが、最終劃の収筆ヒゲを除き、表現の停止もあつてよかったのでは。さすれば却ってダイナミックな筆運びも生きただろう。鬼蜻蜓の風格を見る。